

令和5年度 八重東小学校 研究推進計画

1 研究主題

自己有用感を高める学びの創造 ～ファシリテーションの工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

本校では、平成30年度から5年間にわたって「図書館教育」を中心に据え、「子どもの読書習慣の形成」と「主体的・対話的で深い学び」が実現されることを目指した研究実践を行い、具体的な取組や授業改善を行ってきた。

その中で次のような成果と課題が見られた。

【成果】

- ・単元構想シートを活用して、「問い」に着目した授業づくりを各学級で日常的に行ったことにより、児童が課題意識を持って学習できるようになり、そのことが主体的な学びにつながった。
- ・主体的な学びをめざす「八重東授業モデル(A型・B型)」に基づく授業づくり、対話的な学習の場を設定しデジタル機器を効果的に活用する工夫を行ったことにより、学び合いの充実につながる部分があった。
- ・「八重東小型ファシリテーション」についてまとめ、職員で共通認識を持つことができた。ファシリテートを意識した指導により、児童間で進んで学びを行ったり、自分たちで課題を解決しようとしたりする心情と態度を高めることができた。

【課題】

- ・対話的な学習の場を設けることはできていたが、深い学びにしていくための効果的なファシリテートの方法については、各教員がそれぞれスキルアップを図る必要があった。
- ・授業研究を行う際に授業参観シートを作成し、校内研修の活性化を図ったが、研修の視点が多岐にわたっていたため、焦点化させる必要があった。
- ・授業研究を日々の授業に生かせるようなPDCAサイクルによる改善を行うことが充分でなかったところがあった。

そこで、本年は、授業の「導入」「練り合い」「振り返り」の場面において、教師が「ファシリテーションの工夫」することにより、児童が自ら学ぶ力を向上させ、児童の自己有用感を高めることができるようにしたいと考える。授業において、教師が児童の自ら学ぶ力を発揮させ、自分の考えを思考・判断・表現できれば、自己肯定感・自己有用感が自ずと高まっていくだろう。

3 研究仮説

「導入」「練り合い」「振り返り」場面において「ファシリテーションの工夫」をし、授業改善を行えば、児童の自ら学ぶ力が向上し、自らの存在感を高め、自己有用感が高まる学びを創造することができるだろう。

4 研究内容

授業づくりをするにあたり、以下の視点について研究を行う。

○「導入」の工夫

- ・児童の興味・関心が持てる内容（ICTの活用も検討）

○「練り合い」の充実

- ・児童の言語活動の充実のための場の設定を行う。
- ・児童の思考を深める発問を工夫する。

○「振り返り」の充実

- ・振り返りの視点を定める。
- ・自己の高まりを自覚し、新たな課題解決の挑戦へとつながるような働きかけを行う。

5 検証の視点と方法

(1) 理論研修（研究主題に関わる共通認識）

- ・広島県立教育センター等の研修で「ファシリテーション」に関わる理論研修を行う。

(2) 授業研究（全職員 1 人 1 回以上実施）

- ・授業研究を行う。（1～6年・特別支援学級）
- ・研究授業前には、指導案検討、模擬授業等を行う。
- ・授業後には、授業観察シート等を用いて、観察者による相互評価を行い検証する。

(3) 検証（児童のテスト・アンケート）

- ・単元テスト「国語」「算数」を行い、定着しているか検証する。
- ・学期末に児童のアンケートを行い、自己有用感が高まったか検証する。